

第2部

“夢” 実現プロジェクト

「“夢”実現プロジェクト」とは

「すみだで暮らす人、働く人、訪れる人の夢や希望がかなえられている状態」を「すみだの夢」と定義しました。

「“夢”実現プロジェクト」とは、「すみだの夢」の実現に向けて、墨田区基本計画全体をけん引するプロジェクト事業のことです。

すみだの将来を見据えた「まちづくり」とそれを担う「ひとづくり」を軸に、さまざまな分野の施策を横断的に関連づけ、相乗的な効果を発揮できるように、基本計画の施策体系とは別に設定しました。

“夢”実現プロジェクトは、「暮らし続けたいまち」、「働き続けたいまち」、「訪れたいまち」の3つのプロジェクト事業と、それら事業をさらに発展させていくための「シティプロモーション戦略」から構成されています。

区民や事業者、地域で活動するさまざまな団体等と行政が「すみだの夢」を共有し、力を結集して、それぞれの役割を果たすことにより、その実現をめざします。

ポストコロナ時代における「すみだの夢」の実現に向けて

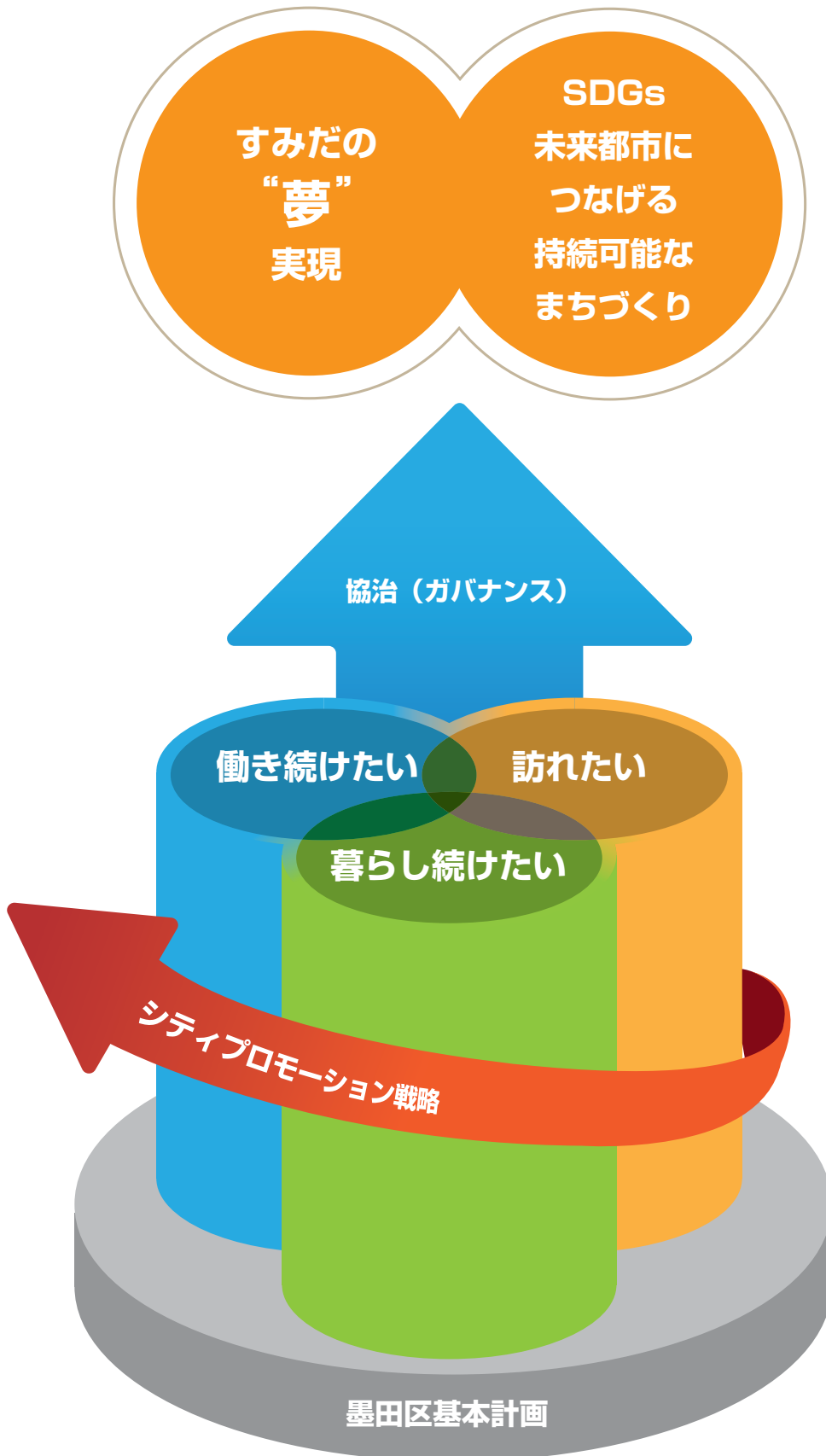
世界的な大流行となった新型コロナウイルス感染症の影響は、区民の生命や生活のみならず、経済、社会、さらには人々の行動・意識・価値観にまで多方面に波及し、先行きの見えない社会情勢への不安感を醸成するとともに、行政サービスのデジタル化の遅れといった様々な課題も浮き彫りにしました。

今後も人々が安心して生活していくためには、こうした新型コロナウイルス感染症で顕在化した課題やリスクを克服し、ポストコロナ時代における、社会の変化・変革を見据えた「新たな日常」の早期の定着・実現が重要となってきています。

このような状況の中、本区では、2020(令和2)年度に「墨田区新型コロナウイルス感染症政策パッケージ」を作成し、新型コロナウイルス感染症対策に取り組むとともに、「新たな日常」の早期の定着・実現のために「社会の変革を促し、“すみだ”の未来につなげる」を重点施策の1つとして掲げ、「健康」、「教育」、「産業」、「行政改革」を中心に取り組んでいくこととしました。

ポストコロナ時代における「すみだの夢」の実現にあたって、「新たな日常」の早期定着・実現は不可欠です。そこで、後期基本計画の期間における「“夢”実現プロジェクト」においても、「健康」、「教育」、「産業」、「行政改革」の分野に積極的に取り組んでいくことで、さらなる「暮らし続けたいまち」、「働き続けたいまち」、「訪れたいまち」の実現を推し進めていきます。

また、SDGsの目指す持続可能で誰一人取り残さない社会は、「暮らし続けたいまち」、「働き続けたいまち」、「訪れたいまち」の実現と方向性は同じであることから、「“夢”実現プロジェクト」を推進することでSDGsの達成につなげていきます。



「暮らし続けたいまち」の実現

(1)切れ目ない子育て支援環境を充実させ、笑顔があふれるまちをつくります!

1 将来像

すべての子育て世帯にとって子育て環境が整備され、仕事と子育ての両立等、自分が思い描くライフスタイルで生活しながら、ゆとりをもって子育てできるまち、地域が温かく子育てに関わるまちになっています。また、子どもたちの権利が守られ、安心して学び、遊べる環境が整い、元気な子どもたちの声が弾む、活気あふれるまちになっています。

さらに、知・徳・体のバランスがとれた教育環境のなかで、ICTも活用しながら、すみだの子どもたちが、Society5.0時代を主体的に生きるとともに、社会で活躍し、地域に貢献できる自立した人に育つとともに、郷土に愛着と誇りをもち、異文化を理解し、積極的に交流できる国際感覚のある人になっています。

2 背景

本区の人口は、若い単身世帯を中心に増加傾向が続く一方で、小さな子どもをもつファミリー層は転出超過傾向にあります。日本全体で少子高齢化が一層進展していくなかで、今後もさまざまな世代が関わりあう活気あふれたまちであるためには、安心して子どもを産み育てられる環境を整備し、子育て世代が「住みたいまち」をつくる必要があります。

また、虐待への迅速な対応など、子どもたちを地域で育む取り組みの強化が求められています。

さらに、技術革新による教育環境の変化、スマートフォンやSNSの普及、核家族化や地域のつながりの希薄化による家庭教育力の低下など、子どもを取り巻く社会環境や家庭環境は急激に変化しています。すべての子どもたちの未来への夢や可能性を引き出すため、地域全体での取り組みが求められています。

3 推進していくプロジェクト

① 子ども・子育て支援が徹底整備されたまちづくり

子育てしやすいまちの実現のため、妊婦や様々な世帯の子育て家庭に必要な支援がきめ細かく届くよう、妊娠期から出産後、就学まで、それぞれの期間に必要な子ども・子育て支援を切れ目なく行います。また、児童相談体制機能を備えた子育て支援総合センターを新保健施設内に移設し、保健所・子育て・教育の機能を併せ持つ施設として、母子・子育てに関する包括的支援機能を強化していきます。

【主な取り組み】

- 新生児訪問指導(こんにちは赤ちゃん訪問事業)【施策452】
- 産後ケア事業【施策452】
- 子育て支援総合センター整備事業【施策461・463】
- 在宅子育て支援サービスの充実【施策461】
- 私立保育所等整備支援事業【施策461】
- 地域子育て支援拠点事業【施策461】
- 放課後児童健全育成事業(学童クラブ運営)【施策462】
- 養育支援訪問事業【施策463】
- 放課後子ども教室推進事業【施策474】

② 知・徳・体の充実を図る教育による将来のすみだを担うひとづくり

すみだで育つすべての児童・生徒が、自分の意思で夢を切り開くことができるようになるため、地域、家庭、大学、学校が連携して、ICTを活用しながら知・徳・体が充実する「すみだらしい教育」を展開します。

また、子どもに関わる支援体制の強化のため、新保健施設に「教育センター」を整備するとともに、児童・生徒が学校生活の中でいきいきと学習・生活できるよう安全・安心で快適性に配慮した学校施設を整備します。STEAM教育など、地域や事業者と連携した教育も進めます。

【主な取り組み】

- 学力向上「新すみだプラン」推進事業【施策471】
- 幼保小中一貫教育推進事業(連携)【施策471】
- 学校ICT化推進事業【施策473】
- 子どもの未来応援事業【施策463】
- 教育センター整備事業【施策471】
- 学校校舎屋内運動場等改築・改修事業【施策473】

③ 緑豊かな公園など、子育てや交流しやすい住環境づくり

暮らしにうるおいを与え、子どもを安心して遊ばせることができ、憩いの場となる公園などを整備することで、子育て世帯が地域のなかで安心して住み続けられる住環境をつくり、交流の場づくりを進めます。

【主な取り組み】

- 新住宅マスタープラン推進事業【施策212】
- すみだ良質な集合住宅認定事業【施策212】
- 江東内部河川整備事業【施策132】
- 公園等新設・再整備事業【施策123・132】
- 隅田公園再整備事業【施策132】

(2) 地域力日本一の、住んでいてよかったまちをつくります！

1 将来像

区民一人ひとりの自助・共助の意識が高まるとともに、燃えない・壊れないまちづくりが進み、災害対応力が向上しています。また、困ったときに相談できる環境が整い、地域の支えあいのなかで、人と人、人と地域がつながることで、誰もが安心して暮らしています。そして、地域コミュニティの多様な担い手によって、地域で活発な活動が行われることで、誰もが地域のなかで、生きがいを持って、いきいきと生活を送っている「地域力日本一」のまちになっています。

2 背景

2013(平成25)年の国の発表によると、マグニチュード7クラスの東京都区部直下の地震発生確率は30年間で70%とされていることに加え、近年、地球温暖化に伴う気候変動等により、突発的な豪雨や大規模な台風など風水害の危険性が増える中で、区民の生命及び生活を守るとともに、被害の軽減を図り、最悪の事態を回避する災害に強いまちづくりを進めていくことが求められています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域や人との「つながり」の希薄化や、人々の生活に大きな影響を与えるなかで、誰もが住みなれた地域で自分らしく暮らせる仕組みづくりが求められています。

これら多様化する地域課題を解決していくためには、地域コミュニティを強化・充実させ、「地域力」をさらに高めていくことで、誰一人取り残さない包摂的な社会を実現していく必要があります。

3 推進していくプロジェクト

① 災害に強い安全・安心なまちづくり

多様な主体の連携による地域の災害対応力を高めていくとともに、建築物の不燃化や耐震化等を促進し、ソフト・ハード両面からの安全・安心なまちづくりを進めます。引き続き、特殊詐欺対策や防犯カメラの設置など、地域防犯力の向上を図ります。

【主な取り組み】

- 不燃化促進事業【施策411】
- 耐震化促進事業【施策411】
- 鐘ヶ淵周辺地区まちづくり事業【施策221・411】
- 北部中央地区まちづくり事業【施策411】
- 細街路拡幅整備事業【施策411】
- 橋梁架替え・再整備事業【施策222】
- 住民防災組織等育成支援事業【施策412】
- 水害対策事業【施策411・412】
- 防犯カメラの設置・維持助成事業【施策413】
- 特殊詐欺被害防止事業【施策413・424】

② 誰もが安心して暮らし続けられるまちづくり

誰もが住みなれた地域で生きがいを持ちながら、安心して暮らし続けられるように、高

齢者や障害者等、支援を必要とする人に、丁寧な情報発信によって、さまざまな福祉、保健医療サービスの提供等を行います。また、区民の健康づくりや健康危機管理の拠点となる新保健施設等複合施設を整備します。

【主な取り組み】

- 包括的支援体制整備事業(重層的支援体制整備事業)【施策421】
- 高齢者のデジタルデバイド対策事業【施策431】
- セカンドステージ支援事業【施策431】
- 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業【施策441】
- 区独自の障害福祉サービス事業【施策441】
- 障害者差別解消法への対応事業【施策442】
- 健康危機管理体制の整備【施策453】
- 新保健施設等複合施設整備事業【施策454】

③ 地域力を高めるコミュニティとひとづくり

地域コミュニティを支える担い手を生み出し、その人材が次代の担い手を育てる人材の好循環を実現し、持続可能な地域づくりを進め、地域力のさらなる充実を図ります。また、様々な価値観を持つ人が共に暮らせる多様性を育むまちづくりを進めます。

【主な取り組み】

- 地域力育成・支援事業【施策421・511・521・542】
- 協治(ガバナンス)まちづくり推進基金事業【施策511】
- 学校防災活動推進事業【施策412】
- 地域連携見守り事業【施策413】
- 民生委員・児童委員活動の支援事業【施策421】
- 日本語ボランティア教室等との協働【施策513】
- 大学のあるまちづくりの推進【施策211・521】

④ 大学のあるまちづくり

千葉大学・情報経営イノベーション専門職大学の誘致をきっかけに、すみだに多くの若者が集い、賑わいと活気のあるまちづくりを進めていきます。また、教育・環境・健康をはじめ、地域課題の解決に向けて、両大学が有する知見を積極的に活用していきます。

【主な取り組み】

- 文化財のユニバーサルデザイン化等に関する研究【施策111】
- 大学と連携した観光案内機能の充実【施策123】
- 人と自然が共生する生活環境の実現に向けた研究【施策132・481】
- ものづくりのまちの持続・発展に向けた連携事業【施策311】
- 高齢者のデジタルデバイド対策事業【施策431】(再掲)
- 区民の健康度評価研究事業【施策451】
- 児童・生徒のリテラシー育成に関する連携事業【施策471】
- 子どもの力を育むプレーパークの充実に向けた研究【施策474】

「働き続けたいまち」の実現

活躍したい人・挑戦したい人たちが、輝くチャンスをつかめるまちをつくります！

1 将来像

すみだの産業に関わる人たちが、時代の変化に対応し、新しい事業に挑戦するなど、いきいきと働いています。環境や福祉など「地域課題の解決」に取り組む先進的な事業者が現れており、ものづくりの技術を培ってきた事業者と連携する中で、新規創業が増加し、既存事業者と新規創業者の交流によって、産業が一層活性化したまちとなっています。また、誰もが自分に合ったワークスタイルで働くことや、地域のために働く、活動するなど、これまでの固定観念にとらわれない働き方や働きがいを感じることによって、充実した生活を送っています。

2 背景

全国でも有数の中小企業の集積地である本区においても、近年では事業者数の減少が進み、区内工場数は最盛期の4分の1を下回っています。今後も本区が「ものづくりのまち」であり続けるためには、技術・技能を次の世代に承継していくとともに、新たな時代に対応した展開が必要です。また、SDGsに積極的に取り組む事業者や、社会課題の解決に取り組む企業も現れていることから、このようなすみだの産業の活性化につながる動きや挑戦する人たちを一層支援・推進していくことが求められます。

一方、新型コロナウイルス感染症の拡大により、働き方に変化が起きている状況にあっても、働きながら子育てできるしくみや、若者の就業意欲の醸成、また、経験豊かな高齢者が活躍できる場の提供や協同労働による働き方等、このまちで働いてみたい、そして働き続けたいと考える人が区内で活躍できる環境づくりは引き続き求められています。

3 推進していくプロジェクト

1 多様な産業の集積から、つながりが生まれるまちづくり

すみだの産業に関わる人がいきいきと働くことができるように、人材育成、産業集積、すみだのものづくりのプロモーションを通じて産業をさらに活性化して、「ものづくりのまちすみだ」を次の世代につないでいきます。

【主な取り組み】

- ハードウェア・スタートアップ拠点構想事業【施策312】
- フロンティアすみだ塾事業【施策311】
- すみだビジネスサポートセンター【施策311】

- 創業支援等事業計画【施策312】
- チャレンジ支援資金の融資あっせん事業【施策312】
- ものづくりプロモーションの推進事業【施策121・313】
- すみだ地域ブランド戦略推進事業(すみだモダン)【施策313・321】

② ワーク・ライフ・バランスを実現し、性別に関わらず誰もが輝き、活躍できるまちづくり

多様な働き方への支援や、区民や区内企業のワーク・ライフ・バランスに対する理解を深め、希望に応じて家庭と仕事、その他さまざまな活動に取り組むことができる環境づくりを推進します。また、区内中小企業が従業員の健康の保持増進に関心を持ち、地域全体の健康度が向上する制度を構築していきます。

【主な取り組み】

- 人材確保支援事業【施策331】
- 男女共同参画及び多様な性の尊重を推進する事業【施策532】
- 女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランス推進事業【施策532】

③ 夢をかなえたい若者や、年齢や障害の有無に関わらず誰もが活躍できるまちづくり

誰もが個々の能力やライフスタイルに合わせ、働きがいをもって就労できる支援や環境づくりを進めるとともに、子どもたちが「働くこと」について考える機会を提供するとともに、本区の産業への興味を持つきっかけづくりを行います。また、地域に関わり活動したい人の支援を行います。

【主な取り組み】

- 就職支援コーナーすみだ【施策331】
- 人材確保支援事業【施策331】(再掲)
- セカンドステージ支援事業【施策431】(再掲)
- 公益社団法人墨田区シルバー人材センター運営支援事業【施策431】
- 障害者就労支援事業【施策442】
- 福祉作業所等経営ネットワーク支援事業【施策442】
- 協治(ガバナンス)まちづくり推進基金事業【施策511】(再掲)



「訪れたいまち」の実現

さまざまな交流が生まれる、憧れのまちをつくります！

1 将来像

すみだならではの歴史や文化、景観等が織りなす「まちの魅力」で、世界中の人が「一度は訪れたい」と思い、訪れた人は「また来たい」と感じる、「国際文化観光都市」になっています。

また、すみだの人や企業・団体の活動に携わりたいと思う多くの人々が訪れ参加することで、さらに新しい活動と人の交流が生まれ、すみだの人と訪れる人とのつながりが強くなっています。

2 背景

新型コロナウイルス感染症の影響により観光需要は大きく減少し、観光関連産業は深刻な打撃を受けました。

地域に人が訪れることは交流を生み、外部から新しい知見や資金を地域にもたらします。本区の特徴である「ものづくり」を活かした観光と産業を結びつけ、本区の個性を活かしたまちづくりを行う必要があります。また、すみだトリフォニーホールや、すみだ北斎美術館をはじめ様々な美術館・博物館の集積地であるという長所を活かし、歴史・文化やものづくりを起点にすみだのファンとなる来街者を増やすことが求められます。

さらに、継続的にまちを訪れる人を増やしていくためには、ビジネスや団体の活動に区内外の様々な人が関わっていく仕組み作りが重要です。すみだのヒト・モノ・コトの魅力を活かし、様々な分野ですみだに関わる人(=関係人口)を増やしていく必要があります。

3 推進していくプロジェクト

1 誰もが安心してまち歩きを楽しめる国際的なまちづくり

歩行者空間の整備、区内に点在する美術館等をつなぐ「美術館・博物館プロムナード」の構築や、豊かな水辺を活用した魅力の向上等、誰もが安心してまち歩きを楽しみながら、区内の至るところで「すみだらしさ」にふれることのできるまちづくりを進めます。

【主な取り組み】

- すみだ北斎美術館事業【施策111】
- 美術館・博物館等観光ネットワーク構築事業【施策122】
- 水辺の賑わい創出事業【施策122】
- 道路バリアフリー等整備事業【施策123・222】

- 主要道路景観整備事業【施策131・222】
- 北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業【施策132】
- 観光地域づくり法人(DMO)との連携【施策122】

② ビジネスなどの活動で関わる人を増やす関係人口づくり

ものづくりをはじめとした産業の先進的な取り組みや製品、区内団体の活動などをSNSを含めた多様な手段で効果的にプロモーションします。また、企業等の会議や学会、教育旅行などMICE(マイス)*を積極的に誘致し、区内での消費を促すとともに外部との共創が起きる仕組みを構築します。

※ MICEとは、会議・セミナー(Meeting)、招待旅行(Incentive tour)、大会・学会・国際会議(ConventionまたはConference)、展示会(Exhibition)の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一形態を指します。

【主な取り組み】

- 「すみだ地域ブランド戦略」を活かした観光振興事業【施策122】
- すみだ地域ブランド戦略推進事業(すみだモダン)【施策313】(再掲)
- ものづくりプロモーションの推進事業【施策121・313】(再掲)
- 教育旅行誘致事業【施策121】
- 大学のあるまちづくりの推進【施策211・521】(再掲)
- シティプロモーション展開事業【施策123・541】
- ハードウェア・スタートアップ拠点構想事業【施策312】(再掲)
- 協治(ガバナンス)まちづくり推進基金事業【施策511】(再掲)

③ ものづくり・歴史・文化を活かした誘客の仕組みづくり

観光の担い手の発掘・育成を行うとともに、すみだに根付いているものづくりや歴史・文化を磨き上げ、心に響くストーリーを発信することですみだを訪れるファンを増やします。

【主な取り組み】

- すみだトリフォニーホール事業【施策112】
- 文化芸術プロジェクト「隅田川 森羅万象 墨に夢」【施策112】
- 総合的芸術祭【施策112】
- 次世代の観光まちづくりの担い手育成事業【施策123】
- ものづくりプロモーションの推進事業【施策121・313】(再掲)
- 多様な主体と連携した情報発信事業【施策121】
- シティプロモーション展開事業【施策123・541】(再掲)
- 観光地域づくり法人(DMO)との連携【施策122】(再掲)

シティプロモーション戦略

多くの人々が「すみだの魅力」を伝え合い、「すみだの夢」を実現していきます

1 将来像

多様な主体と区との協働によるすみだの魅力の伝え合いが活発に行われ、区民のすみだのまちに対する「愛着」と「誇り」が育まれていきます。これらがすみだの地域力を向上させ、まちづくりを推進するさらなる原動力となり、「暮らし続けたい、働き続けたい、訪れたいまち」の実現に近づいていきます。

2 シティプロモーションブランドメッセージ

「人 つながる 墨田区」をブランドメッセージとして、区民・事業者・区が共有して、シティプロモーションを展開します。



ひと、つながる。
墨田区

「人 つながる 墨田区」というメッセージには、ここに暮らす、働く、訪れる、すべての人につながるの温かさを魅力に感じてもらい、それを地域の力へと変えていきたいという想いが込められています。

墨田区は「人と人とのつながり」を大切にしながら、未来への道を歩んでいきます。

3 シティプロモーションの目的

地域力の向上のために、持続的にシビックプライドを醸成していくこと

墨田区のシティプロモーションは、すみだの地域力が一層高められるように、区民の地域に対する愛着と誇り(シビックプライド)を高めていくことを目的に実施します。そのために、これまで墨田区が大切にしてきた、まちづくりに必要な「知る力」「つながる力」「行動する力」の3つの力のうち、「知る力」を大きくしていく活動に注力していきます。「知る力」が大きくなることで、「つながる力」「行動する力」も拡大し、シビックプライドの醸成につながっていくと考えています。

区民、事業者、区などの主体が、互いにつながりを深めて、力を合わせ、共に支えあう地域力を活かしたシティプロモーションの推進によって、基本計画に掲げる“すみだの夢”実現を加速させていきます。

4 シティプロモーション戦略の成果をはかる指標

「墨田区民であることを誇りに思う」区民の割合

| 現状値(2020(令和2)年度) | 目標値(2025(令和7)年度) |
|------------------|------------------|
| 61.6% | 75.0% |

データ出所:住民意識調査

5 戦略の視点

① 各主体の広報活動を活性化して、まちの魅力の伝え合いの好循環を創出する

まちの魅力の伝え合いの好循環を創出することによって、持続的にシビックプライドを醸成していきます。こうして、区民、事業者、区など様々な主体が、「自分の暮らすまちのために、自ら発信したい」という想いや、地域への愛着と誇りを高めていき、より磨き上げられたまちの魅力を伝え合っていくすみだの日常をめざします。

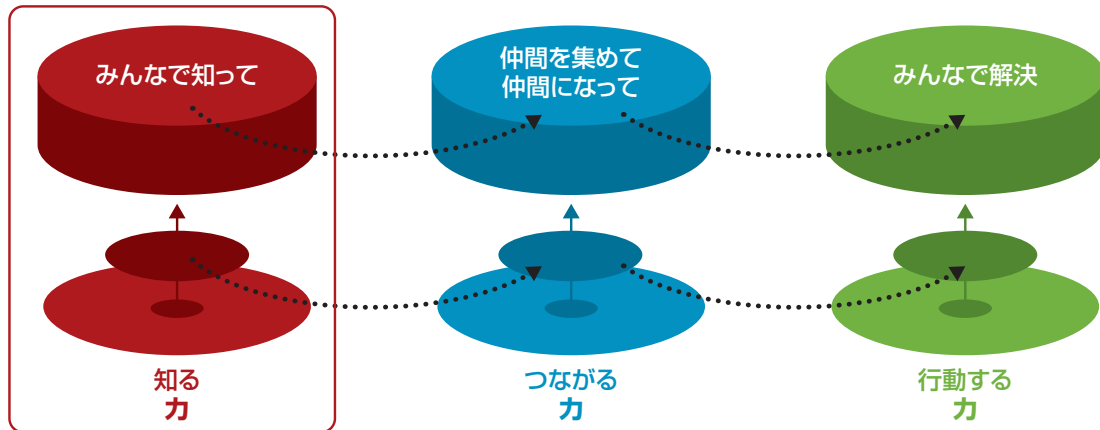
② 職員一人ひとりが区民目線に立った情報の発信と共有に努めて、信頼関係を一層高める

区民目線に立った情報の発信と共有によって、区民と区の信頼関係が一層高まるように、職員の広報マインドの向上、スタッフプライドの醸成等について、広報広聴の観点から全庁で取り組みます。また、①における、各主体の広報活動の活性化を支える基盤としての役割も担います。



シティプロモーション

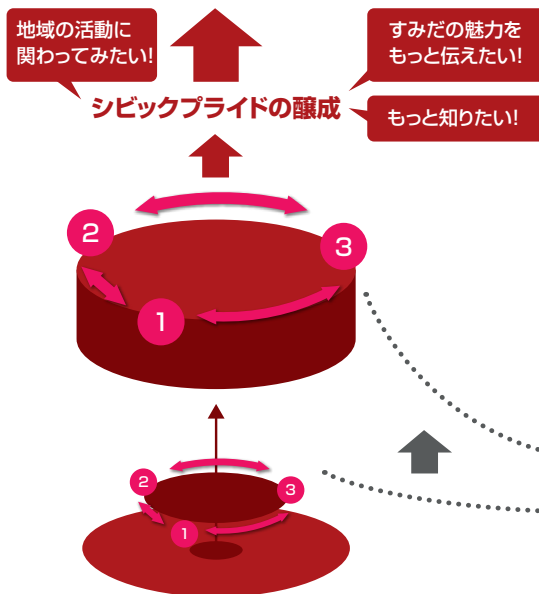
すみだの地域力が向上



シティプロモーションの推進がすみだの地域力向上につながる

- ① シビックプライドの醸成が“まちをもっと良くしたい”という活動の原動力となる
- ② すみだの「知る力」が大きくなって「つながる力」と「行動する力」も大きくなっていく

①②③の要素が好循環することで伝え合いが広まるとシビックプライドが醸成されて、さらに伝え合いが広がる



【戦略の視点1】

各主体の広報活動を活性化して、まちの魅力の伝え合いの好循環を創出する

活性化に必要な3つの要素

- ① 地域情報を発掘して磨き上げる
▶ 多くの人が「すみだ」を知る
- ② 共感の輪を広げる
▶ 多くの人へ「すみだ」を伝えたいくなる
- ③ プロモーション媒体を有効活用する
▶ 多くの人に「すみだ」が伝わる

【戦略の視点2】

職員一人ひとりが区民目線に立った情報発信によって、信頼関係を一層高める
区民と区の信頼関係が高まることで伝え合いの好循環を支える基盤が整っていく